

医師会 健康講座

貧血の種類について

JCHO宇和島病院（賀古町） 三好 一宏



貧血といってもいくつもの種類があり、症状もさまざままで治療法も異なります。

一般的に貧血になると、顔色不良、動悸、息切れ、めまい、易疲労感、頭痛などの酸素欠乏に伴う症状が表れます。血液を少しでも全身に送ろうとして心臓や肺に負担がかかるため、健康な状態よりも疲れやすくなります。少しの運動でも動悸、息切れを起こすのはそのためです。

急に起き上がったり、立ち上がったとき、朝礼などで長時間立っているときなどの立ちくらみや眩暈がしたときの症状は脳貧血です。正確には起立性低血圧と呼ばれ貧血とは根本的に違う症状です。

最もよく見られるのは鉄欠乏性貧血です。主な原因としては、
▽鉄分の不足…極端な偏食、鉄の吸収不全（胃切除後、吸収不良症候群）

▽鉄の需要の増大（妊娠、授乳や成長期など）

▽出血…女性では月経による出血、男性や閉経期の女性では胃潰瘍など消化管出血

などがあります。治療としては鉄剤を投与しつづつ原因の治療を行います。

巨赤芽球性貧血はビタミンB12欠乏（胃切除後、胃粘膜の萎縮と内因子の分泌不全による吸収障害）と葉酸欠乏（偏食、大酒家、妊娠、肝硬変など）が原因で起こります。

一般的な貧血の症状のほかに、舌の萎縮、手足のしびれ、精神症状（うつ状態、記憶障害など）、白髪が増加などを合併することがあります。治療としては、ビタミンB12の筋肉注射、葉酸の内服などを行います。

溶血性貧血は先天性、自己免疫疾患などの何らかの原因で赤血球が壊れやすくなることで起こります。一般的な症状のほかに、破壊された赤血球の色素の沈着による黄疸や脾臓の腫れといった症状が起こります。この場合の黄疸は肝

臓とは関係がありません。また尿の色が濃くなることもあります。原因にもよりますが、脾臓の切除やステロイド剤、免疫抑制剤の内服などで治療します。

血液は骨髓で作られており、骨髓に異常が生じた際にも貧血が起こります。再生不良性貧血、赤芽球癆、白血病、骨髓線維症などの血液疾患やがんの骨髓転移などが挙げられます。この場合は、貧血のほかに白血球、血小板減少などを伴うことが多く、肺炎などの感染症を合併したり、皮膚や歯肉からの出血や紫斑がでやすくなったりします。治療は、輸血、抗がん剤投与、骨髓移植などを行います。

ほかの病気に合併し続発性貧血が発症することもあります。慢性感染症、慢性炎症（リウマチなど）、悪性腫瘍、慢性肝疾患や腎不全に起因する腎性貧血などが挙げられます。腎性貧血については、腎臓から産生される造血ホルモンの工

リドロポエチンの産生低下による赤血球産生障害であり、治療については、エリスロポエチン製剤の皮下注射を行ったりします。

貧血といっても、いろいろな原因があり、鉄剤だけでなく治療法もさまざまです。動悸、息切れ、ふらふらするなどの貧血の症状が持続する場合には、一度医師に相談することをお勧めします。

